

東日本大震災復興支援 生活支援相談員ニュースレター～VOL. 22～

平成29年8月発行

【発行】

岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ

岩手県盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7032 FAX:019-637-7592

定例的な事例検討の実施を目指して ～進行役のノウハウを学ぶ～

平成29年8月24日（木）～25日（金）、釜石地区合同庁舎を会場に「事例検討スキルアップ研修会」を開催し、市町村社協の生活支援相談員等29名が参加しました。

神奈川県立保健福祉大学顧問の山崎美貴子氏、淑徳大学総合福祉学部准教授の山下興一郎氏を講師に、事例検討の真の目的と進行役の重要性、複雑に絡まった事例を読み解くアセスメントの視点等を学びました。

事例検討では、参加者が提出した事例を用い、数名が実際に進行役を担いました。それぞれの事例を通して、仮設住宅に残っている人たちの意向調査等各市町村の状況も確認することができました。

山崎先生、山下先生の講義では、生活支援相談員は最後まで被災者に歩幅を合わせて寄り添う人、世帯の関係性まで見えているのが「生きた情報」であり、「その人の生きている世界」にお邪魔して「生きた情報」を話してもらうまで待つこと、「生きている世界」を感じることができるのが生活支援相談員の良さであること等の話がありました。

また、友人や親せき等、生活支援相談員と近い人との関わり方は、「私個人」と「生活支援相談員」という社会的な役割という2つの立場があり、個人的な感情も入るかもしれないのでつらいが、「身内の恥」と感じるのではなく、「皆に支えてもらうべき立場にある人」、「一緒に分かち合う状況に立っている」と思ってくださいとの助言がありました。

本会では、相談業務の質の向上を図るため職員同士による定例的な事例検討の実施を推奨しています。



事例検討には、参加者がその意義を理解し方法を心得ておくことと適切な進行の両面が欠かせません。進行役には、事例の課題を的確に捉え焦点化しながら、参加者の合意形成や相互理解を促進するという重要な役割があります。

今回の研修は、事例検討の進行役に必要な知識、技術及び姿勢を学び、かつ、各市町村社協において事例検討の定着が図られるよう実践的な演習を行うことを目的として開催しました。

沿岸部の生活支援相談員リーダーが課題と解決策を話し合う

平成 29 年 8 月 2 日（水）、山田町保健センターを会場に「第 1 回生活支援相談員リーダー等情報交換会」を開催し、沿岸部の社会福祉協議会の生活支援相談員リーダー等 26 名が参加しました。

午前中は、事前のヒアリングで最も関心が高かった「チーム運営」をテーマとしました。始めに本会から、これまでの過去の情報交換や研修のアンケートを抜粋した資料により、生活支援相談員の思い、見えてきた傾向、事例検討会における講師の助言等を情報提供し、それを踏まえた上でグループごとに情報交換を行いました。



★ 本会からの情報提供 ～チーム内連携に係る内容～（過去のアンケート結果から抜粋）

年数	学んだこと、明日からやってみよう、やってみたいと思ったこと
2年未満	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織として取り組むということを常に頭において活動していきたい ○ チーム内での共有は毎朝やっているが、その次の段階の、どこまでやれるのかを話し合う事はあまりないので、できればいいと思う
5年未満	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社協が組織的に役場・地域包括と対話する仕組みがないとつながらないのではと思った。それでも、生活支援相談員としてつなぐことが必要と思われる人をチームで相談し、上司に判断をあおぎ、関係機関につないでいこうと思う ○ 講師から助言があったように、チームで共有して上司や包括に伝えていこうと思う ○ チームだけではなく、上司、他機関へつなげたり意見を聞いたりすることも大事だと感じた
5年以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社協内での情報の共有、申し送り、統一した対応の仕方の再確認 ○ 自分 1 人でなんとかしようと思うことはやめる ○ 社協内で情報を深め「社協としてどのように関わるのか」を意識していきたい ○ 社協のチーム力、職員間での情報共有を上手く使い、地域へ結び付けていこうと思う ○ 生活支援相談員だけで解決したり(関わったり)するのではなく、地域・支援者(包括・サポートセンター・民生委員等)と細やかに情報共有する

チームで活動する業務であるため、人間関係や相性などチーム運営に悩むリーダーも見られましたが、「経験の浅い生活支援相談員にしか気づけない『気づき』があるので、そこを丁寧に拾いあげていけるかが大事」、「自分の悩みや困っていることを話せ、アドバイスをもらえたいし、皆も同じ悩みを抱えていることが分かり『ほっ』とした」等の意見が挙げられました。

本会では、経験の浅い生活支援相談員、リーダークラスの生活支援相談員、内陸の生活支援相談員等、同じ立場の生活支援相談員同士が自由に情報交換を行う場を設けています。

悩みや課題を共有し助言し合うことで、新たな気づきを得るとともに、仲間の存在を身近に感じることで精神的にもリフレッシュすることを目的としています。